

宮城県議会議員

杉原たかし

発行者：杉原崇

事務所：宮城県宮城郡松島町磯崎字磯崎100-29

連絡先：090-1498-5673

メール：sugihara.miyagi@gmail.com

HP：https://be-blue.jp/



【ご挨拶】



日頃より温かいご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。このたび「県政報告 Vol.6」を作成いたしました。お時間の折にご高覧いただければ幸いです。

さて、10月26日執行の宮城県知事選挙において、現職の村井嘉浩知事が6選を果たしました。5期20年の経験を生かし、県政発展に努めていただければと思います。

知事選挙期間中、交流サイト（SNS）上の偽情報や誹謗中傷が蔓延り、選挙の健全性、公正性をいかに確保していくかが課題となりました。インターネットは必要不可欠なライフラインとなってきた一方、匿名性や不特定多数性等、その特性に由来する誤った情報や嫌がらせによる風評被害、他人の名誉や感情を傷つける誹謗中傷など使い方や投稿の表現等によって、人権が侵害され、誹謗中傷等で心が傷つくこともあります。

そのため、宮城県議会では表現の自由に配慮しつつも、県民を誹謗中傷から守るために条例による対策が必要であることから、インターネット上での誹謗中傷対策の条例案の作成に向けた検討会を設置することになりました。この話し合いでは、他県の条例を参考に、被害者の相談体制やネットリテラシーの向上を目指す事としております。全ての人の人権が尊重される豊かなインターネット社会を創り続けていくことが大切であり、誹謗中傷等の人権侵害のない社会づくりを進めなければならないと考えます。

寒さもひとしお身にしみる折ではございますが、皆様におかれましては、どうかお身体を大切になさってください。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

第398回県議会（令和7年11月定例会）において、一般質問を行いました



全質問につきましては
インターネット中継を
ご覧いただけます。



Facebook



X



Instagram



TikTok



YouTube

杉原たかしの情報を発信中!

1 主権者教育の一層の充実について

- 問 情報リテラシーなどの教育の重要性が高まる一方で、学校間における指導のばらつきの指摘があるが、SNS時代に求められる情報リテラシー教育の現状認識と今後の強化策はどうか。
- 答 先進的な取組を行っている学校の実践事例を横展開し、より実践的なカリキュラムやデジタル教材を開発するなど一層の充実に取り組む。
- 問 主権者教育の定着には、教材提供や研修充実、ガイドライン整備など、教員が安心して実施できる環境整備が不可欠だが、今後どのような支援策を講じていくのか。
- 答 県独自の指導ガイドラインを作成し、事例に基づいた模擬授業など実践的な内容の教員研修を行う。
- 問 若年層の投票率向上には若者目線での伴走型支援が有効であることから、県選管と県教委が連携し、松山市を参考に「選挙コンシェルジュ」制度の導入を推進すべきと考えるがどうか。
- 答 選挙コンシェルジュに任命された地元学生が主体的に選挙啓発や出前講座等を行っており、こうした学生と連携した取組事例を研究する。

3 観光地松島の交通課題解決に向けた検討状況について

- 問 松島イノベーションヒルズを通る県道9号大和松島線から国道346号を結ぶ新たなルートが、国道45号のバイパス化に向けた重要な幹線となり得るとともに早期の完成に繋がると考えるが、この路線の活用を含めた現時点での検討状況はどうか。
- 答 国や松島町と緊密に連携し、町の道路整備計画と整合を図りながら、経済性、施行性、地域に与える影響等を考慮するなど、新たなバイパスの具体的なルート検討を進める。
- 問 歩行者天国の再実施は町単独での取り組みを進めるにはハードルが高く、県が後押ししていくのが重要であるが、再実施に向けた町との役割分担や規模の在り方などの検討状況はどうか。
- 答 今年度、国や松島町と「松島海岸地区の交通環境あり方勉強会」を設置し、歩行者天国の実施を含めた国道45号の道路空間の活用をはじめ、周辺交通環境の在り方などについて意見交換を行っている。

2 学校給食の在り方について

- 問 自治体負担を伴う学校給食無償化による水準低下や地域格差が懸念される中、各市町村や学校現場における給食の質や栄養価の維持・向上に向けた基準や支援策の検討状況はどうか。
- 答 国の検討状況について情報収集しながら、市町村が円滑に実施できるよう必要な対応をする。
- 問 児童間の公平性という観点から、私立学校やアレルギー、不登校等により給食費無償化の恩恵が及ばない児童生徒への配慮についての考えはどうか。
- 答 公立と私立との間で差が生じることの無いよう国に求める。また、無償化の恩恵が及ばない児童生徒への対応など情報収集とともに必要な対応を行う。
- 問 山梨県で実施している農福連携による農産物の特別支援学校等給食への活用は、食育の観点に加え、障がい者の就労支援や工賃向上など多面的な効果が期待されるが、評価と導入に向けた考えはどうか。
- 答 生産事業者と学校をつなぐ仕組みが必要であり、「みやぎ農副連携推進ネットワーク」と連携し、学校給食への活用を検討する。

4 ワークেশョンの推進について

- 問 世界的に急成長を遂げるデジタルノマド市場に対応するための環境整備が課題であるが、海外デジタルノマドの誘致について、現状認識、取組状況、今後の方向性はどうか。
- 答 今年度から力を入れている欧州プロモーションの一環として、新たにフランスに設置した現地サポートデスクも活用しながら、誘客可能性を探る。
- 問 東京都で実施されている、観光コンテンツの拡充や企業との関係構築、将来的な移住等が期待される「地域交流ワークেশョン体験ツアー」を積極的に展開すべきと考えるがどうか。
- 答 企業の研修ニーズを伺うとともに、体験ツアーに取り組んでいる他自治体へのヒアリングを行うなど情報収集を行う。

令和7年度11月補正予算

今回の補正予算は、国の「強い経済」を実現する総合経済対策」を踏まえ、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した物価高への対応や、成長投資による強い経済の実現に向けた経費を予算化(主な施策を掲載しております。その他の施策については、県のHP等をご覧ください)

① 物価高への対応

(1) 生活者支援

- 低所得世帯支援事業(62億5,000万円)
低所得世帯に対する物価高騰対策を行う市町村への支援
- ひとり親世帯支援事業(9,600万)
低所得のひとり親世帯に対する物価高騰対策を行う市町村への支援
- L P ガス料金負担軽減支援事業(10億2,800万)
L P ガス料金を値引きする販売事業者等への助成

(2) 事業者支援

- 土地改良区原油価格高騰対策事業(2億5,200万円)
少雨による農業用水の渇水対策

- 社会福祉施設等物価高騰対策事業(11億3,594万円)
植栽保育活動を行う市町村への支援
- 交通事業者等支援事業(21億5,000万円)
バス、タクシー、自動車運転代行の各事業者に対する事業継続への支援

② 成長投資による強い県内経済の実現

- 旅客運送事業者経営強化支援事業(7,000万)
旅客運送事業者の生産性向上や人材確保に向けた取組への助成
- 物流事業者経営強化支援事業(1億円)
物流事業者の生産性向上や人材確保に向けた取組への助成

③ 医療・介護・障害福祉分野における処遇改善

- 医療機関等職員処遇改善等支援事業(10億3,100万円)
医療機関、保険薬局等に対する賃金引上げや物価高騰への支援
- 高齢者施設サービス継続支援事業(3億2,900万円)
介護施設に対する食事サービス継続への支援

④ 国土強靱化の推進

- 国土強靱化対策事業(213億8,415万円)
第1次国土強靱化実施中期計画に基づく取組の推進

ツキノワグマ総合緊急対策について

ツキノワグマ人身被害防止強化期間(10/23~12/31)

県では、熊害、クマ出没被害を軽減するため、10月23日から12月31日まで、県内全域において「ツキノワグマ人身被害防止強化期間」を実施します。この期間中は、県民の皆様に警戒を呼び掛けており、クマの出没や被害の発生を防止するための対策を実施しています。

ツキノワグマ人身被害防止強化期間中は、特に、クマを寄せ付けず、人獣混在に近づかないための5つのポイントに注意してください。

- Point 1 目撃情報に注意！
クマは、山間部や森林に生息し、警戒心が強く、人間に近づきません。クマの行動パターンは、人間とは異なり、夜間や朝の薄明かりに活動します。目撃情報は、クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 2 河川敷のヤブに注意！
クマは、河川敷のヤブに侵入し、水辺で休息することがあります。クマの行動パターンは、人間とは異なり、夜間や朝の薄明かりに活動します。目撃情報は、クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 3 入山時のリスクに注意！
山はクマの生息域です。特に、山道にはクマの足跡や糞などがあります。クマとの遭遇リスクを減らすために、入山時には、クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 4 クマのオヤシとなるようなものの管理に注意！
クマは、食べ物や飲み物などのオヤシを好みます。クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 5 基本的な遭遇防止対策の徹底を！
クマとの遭遇は、危険です。クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。

ツキノワグマ人身被害防止強化期間中は、特に、クマを寄せ付けず、人獣混在に近づかないための5つのポイントに注意してください。

- Point 1 目撃情報に注意！
クマは、山間部や森林に生息し、警戒心が強く、人間に近づきません。クマの行動パターンは、人間とは異なり、夜間や朝の薄明かりに活動します。目撃情報は、クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 2 河川敷のヤブに注意！
クマは、河川敷のヤブに侵入し、水辺で休息することがあります。クマの行動パターンは、人間とは異なり、夜間や朝の薄明かりに活動します。目撃情報は、クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 3 入山時のリスクに注意！
山はクマの生息域です。特に、山道にはクマの足跡や糞などがあります。クマとの遭遇リスクを減らすために、入山時には、クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 4 クマのオヤシとなるようなものの管理に注意！
クマは、食べ物や飲み物などのオヤシを好みます。クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。
- Point 5 基本的な遭遇防止対策の徹底を！
クマとの遭遇は、危険です。クマの生息域や行動範囲を知る上で重要な情報です。

ツキノワグマ人身被害防止強化期間チラシ

- 今年度は、県内のツキノワグマの目撃件数が3,018件(11月30日時点)と過去最多となっています(県内には昨年度2,783頭が生息している報告があります)。
- 住宅街でクマが目撃され、地域住民への人身被害が発生していることから、安全確保のための緊急対策を実施します。
- 県では10/23~12/31までを「ツキノワグマ人身被害防止強化期間」として、県民の皆様に警戒を呼び掛けております。

取組1 クマから「県民を守る」緊急対策

- (1) 被害防止資材の配備(1億2,230万円)
被害防止資材の市町村への配布
捕獲のための箱わなの配備
- (2) 地域の見回り強化(3,160万円)
市町村の要望に応じて、民間警備会社等に委託し見回りを実施
- (3) 出没危険箇所対策(1億3,239万円)
誘引する樹木(柿、栗等)について、市町村と所有者で調整がつか次第伐採
クマの移動ルートの遮断を目的に、県管理河川の藪の刈払いの実施

取組2 農林水産事業者の安全確保対策

- (1) 農業者の安全確保対策(3,600万円)
専門家による農業被害対策の研修の開催 他
- (2) 水産事業者の安全確保対策(1,600万円)
内水面養魚場等の電気柵整備、緩衝帯の設置等の被害防止対策

取組3 野生鳥獣の捕獲体制の強化

- (1) 鳥獣被害対策専門指導員の増員による捕獲体制の強化(600万円)
鳥獣被害対策専門指導員の増員・配置による捕獲体制の強化(R8年度から) 他



令和7年度
クマ目撃等情報

議員活動について

宮城県内の課題解決に向けた視察や意見交換、議員の資質向上を目指した勉強会、各イベントへの出席等々、これまでの活動の一部をご紹介します



沖縄慰霊祭
(宮城県出身の戦没者の慰霊)



山梨県総合農業技術センター
(農産物の生産技術の開発などを視察)



中央省庁勉強会
(ヤード環境対策、食料安全保障等)



海洋総合実習船「宮城丸」
(宮城水産高生らを激励)



知事表敬
(役員退任挨拶)



教育旅行の受入推進
(台北市政府教育局や校長等との交流)



台湾事業者との交流
(台湾南投観光協会との交流)



宮城未来塾
(復興語り部クルーズ)



副知事陳情
(漁港浸淫等について)



アジアトレイルズカンファレンス
(アジア各国・地域のトレイル団体が参加)



ラプラス公園inかせぬま
(みやぎ応援ポケモン遊具の寄贈)



ドリームベースボール
(元プロ野球選手による野球教室や親善試合)



松島第5小学校開校150周年
(シダレザクラの植樹)



まつしま産業まつり
(地場産品などの直売イベント)



松島手榴収穫祭
(松島手榴海浜公園)



葉山eスポーツ体験フェスティバル
(eスポーツによる地域交流)



こどものまちinりふ
(「仮想のまち」での職業体験)



AOYAMA地域食堂
(地域のつながりを育む楽しい居場所づくり)



■ 県政に対するご意見、ご提言などお聞かせください！

FAX: 022-353-3147 メール: sugihara.miyagi@gmail.com までお願いいたします

* 過去の活動報告書をご希望される方には直接お届けいたします！

お名前	
ご住所	
電話番号	

内容: